

2025 年度「深田賞」受賞者 顕彰理由

今村 遼平（いまむら りょうへい）

今村遼平氏は、1963 年（昭和 38 年）熊本大学理学部地学科を卒業し、同年、国際航業（株）に入社、1989 年（平成元年）からアジア航測（株）に勤務し、1997 年（平成 9 年）から同社総合研究所長を務めた。2001 年（平成 13 年）に同社顧問となり、2015 年（平成 27 年）からは名誉フェローとして現在に至っている。

今村遼平氏は、空中写真判読が防災事業等に十分活用されていなかった時代に、地形・地質技術者として写真地質学を土砂災害などの自然災害の対策技術として開発し、普及させた。また地形工学の空間情報を道路建設やダムサイト・後背流域調査へと実用化する効率的な手法を社会へ提示した。これらに加え、ハザードマップの基本となる現場の見方や考え方をまとめ、その作成を公共団体の事業として実践・普及させるなど、多くの功績をあげてきた。さらに土木事業を円滑に進める上での地形判読技術の重要性を指摘し、応用地形判読士の養成を目的にした試験制度に立上げから関わり、中心的な役割を果たした。このように同氏は、民間企業で 60 年以上にわたり地質技術者として第一線で技術の応用と普及に尽力し、人材育成、技術者倫理の啓発にも注力した。

同氏は、建設省・国土交通省や日本道路公団関連の 20 以上の委員会、全国地質調査業協会連合会、日本測量調査技術協会、海洋調査協会、地盤工学会、日本写真測量学会、土木学会などの委員会の委員・委員長を歴任し、中でも現在の防災マップの基本となるハザードマップに関する委員会では主導的役割を果たした。さらに早稲田大学・大阪大学など多数の大学・大学校で集中講義を担当し、次世代の地質技術者の養成にも尽力した。

今村氏は、民間企業で積み重ねたキャリアの中で「現場の知」を重視し、技術の実践的な応用と普及、人材育成、技術者倫理の啓発に注力した活動を行ってきた。その根底には、社会の要求に応える現場主義と技術者としての矜持と哲学がある。著書も多数あり、『応用地学ノート』や『フィールドロジ（現場の知）』は、地質学の知見を工学的・社会的な応用へと結びつける専門技術者向けの実践的な知識を記述したものであり、さらに一般市民の防災意識向上のための啓発書、技術者倫理や思想史などに関わる著書など、その分野は多岐にわたっている。

以上、今村遼平氏の地形判読技術の土砂災害への応用や普及、地形工学の空間情報の実用化、またハザードマップの基礎の確立などの業績、学協会への貢献、次世代の地質技術者の養成や一般市民への普及への貢献は極めて高く評価される。これらのことから、今村遼平氏をここに顕彰する。

2025 年 9 月 26 日

公益財団法人 深田地質研究所

理事長 松田博貴